



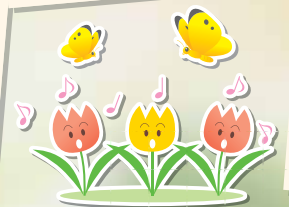
お便りとメッセージのコーナー



「いつか私も」

私はまだ14才なので献血はできません。でも最近献血者が減少していると聞くので、私も16才になったら献血に協力しようと思います。いろいろなキャンペーンイベントなどもやっているの、お母さんやお姉ちゃんで行こうと思います。

(四街道市 M・Sさん)



DONOR 2010.3 No.61

「他の人の役に立てたら」

7年前、次男が病気を患って生まれてきた為、手術時には、輸血を行いました。若い頃から献血は何度も行っていました。子供の命を救っていた時、出来るだけ自分も献血に行き、他の人の役に立てたいなと思いました。これからも時間がある時は献血に伺いたいです。

(香取市 T・Oさん)

「何より心配なのは・・・」

ドナー通信を読むと献血中に聞いた話と同じことが書かれていて、何とかならないものか・・・と考えてしまいました。それでも年々献血者は増加しているのはうれしいことだと思います。何より心配なのは若い方の参加が少ないことでしょうか。

「人を思いやる」ということには、一歩大きく踏み出す勇氣が必要だと思えます。席をゆずる時、注意する時などは、「よーし」と思わないとできないことがあります。そんな大きなことではないかもしれませんが、でも無理、やだ、めんどくさいなどの言葉で逃げないで欲しいと思います。できれば自分の子どもには、献血に協力できる「健康と気持ち」をつけられればと考えているところです。私自身も継続して協力できるよう日々の生活を大事にしたいと思っています。

(四街道市 K・Sさん)

「うれしくなります」

ドナー通信を読むと、献血する側と輸血される側両方の気持ちが良く伝わってきて、涙が出そうな時があります。

私は平和(凡)な人生を送ってきて、献血するだけで輸血されたことはないけれど、ドナー通信を読むことで、様々な人生があり、たまにお手伝いができているかもと考えるとうれしいです。

(千葉市 K・Aさん)

特集

60号記事「生あるは献血のおかげ」(秋山さん寄稿手記)に関するたくさんのお手紙をお寄せいただきました。この紙面では、特集としてメッセージをご紹介します。

- とても凄まじい内容でした。幾つもの死線を乗り越えてこられた生命の強さに敬服いたします。そして自身の健康の有り難さを感じました。ありがとうございます。(南房総市 K・Sさん)
- 秋山さんの手記を読んで、命の大切さと献血によって救われる命がある事を痛感しました。これからもできる限り献血に御協力したいと思います。(我孫子市 Y・Yさん)
- 「献血感謝のつどい」で秋山氏の講演を拝聴しました。私も胃痛などで2回の輸血を経験しており、秋山氏の話には自己の体験からも大変感動しました。(市川市 T・Tさん)
- 「献血感謝のつどい」の際の体験発表を読ませていただきました。まさか自分が・・・と思うような大病を患い、献血がなければ生還も出来なかった・・・と感じました。(千葉市 T・Yさん)
- 初めてドナー通信を読みました。手記「生あるは献血のおかげ」を読んで、改めて献血をするということは、「色々な人の役に立っているのだなあ。」と知ることができました。これからも出来るかぎり献血を続けていこうと思います。(船橋市 Y・Tさん)
- とても感動してウルっときてしまいました。献血の大切さをもっと多くの人たち、特に若い人たちに知ってもらいたいと心から思います。(船橋市 C・Sさん)
- 秋山様の手記を拝見しました。大変な人生であると同時に、献血がこのような形でいかされていることがとても良くわかりました。若い方の協力が減っているとのこと、献血者を増やすために何かできることがあれば良いのです。(千葉市 M・Iさん)
- 普段接する機会のない輸血を受けた方の声も載っており、献血を継続していく動機付けにもなっています。(千葉市 T・Tさん)
- 手記「生あるは献血のおかげ」読ませていただきました。病気はいつなるかわからないものですね。何人にしてあげられない私ですが、せめて献血だけはと思いました。私もこの間百回目の献血をしてとてあえずの目標はクリアしました。もっと若いうちから献血していればと思う日々です。本格的に献血し始めたのは、三十半ばでしたので。過日は「百一回目のプロポーズ」ならぬ「百一回目の献血」を達成し、新たなスタートとしました。「献血できる幸せ」と「健康であることの幸せ」。この手記を読んで新たに強く思うのです。(印西市 M・Kさん)
- 「ドナー通信」初めて知りました。献血ルームのお姉さんが袋に入れてくれなかったら知らないままでした。「寄稿手記」が良かったです。実際にどのように血液が使われているのかわかったので、今後も献血しようと思いました。(松戸市 K・Uさん)
- 寄稿手記を読んで改めて献血の大切を感じました。(船橋市 F・Kさん)
- 寄稿手記「生あるは献血のおかげ」、感動をもって拝読しました。(君津市 Y・Kさん)

「生きとし生きるもの」

秋山さんからメッセージをお預かりいたしました。この紙面にてご紹介させていただきます。



このたび、ドナー通信のお便りを拝見させていただき、あらためて感謝の気持ちに打ち震えております。献血をしてくださり、そしてドナー通信にメッセージを寄せてくださった皆様方、大量輸血を受けた私と息子は皆様方の尊い献血のおかげでこの世に生をいただいております。お便り特集に綴られた文字の向こう側にいらっしゃる皆様方のお顔を思い浮かべながら、何度も何度もメッセージを読ませていただきました。「生きとし生きるもの」として、万感胸に迫る思いでございます。ここにあらためて皆様方に感謝の言葉を申し上げます。ありがとうございました。

心のこもったお便りとメッセージをありがとうございます。

- このコーナーでは、献血にまつわる想い出、感想、ご意見や実際に輸血を受けられた方々、そのご家族、輸血医療に携わる医療関係者の方々からのお便りをお待ちしています。
- お便りは、次号以降のドナー通信紙面や当センターのホームページなどで、市町村名とイニシャルを使い紹介させていただきます。
- 「お便りコーナー」でご紹介させていただいた方には、記念品を進呈いたします。
- あて先 〒274-0053 船橋市豊富町690 千葉県赤十字血液センター内 ドナー通信係